

各事業の『量の見込み』の算出方法について

本計画は、教育・保育事業及び地域子育て支援事業の各事業における、提供体制の確保の内容を記載することが定められています。

提供体制の確保の内容については、各事業の利用ニーズ（量の見込み）に応えることのできる体制が求められており、利用ニーズについては、潜在ニーズを含めた量の算出方法の標準的な方法として、『市町村子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出等の考え方』に示されています。

標準的な量の見込み算出方法

各事業に関連する子育て家庭に対するニーズ調査の結果から得られる、潜在家庭類型（割合）と利用意向と推計児童数を乗算してニーズ量を算出します。

$$\boxed{\text{推計児童数}} \times \boxed{\text{潜在家庭累計 (割合)}} \times \boxed{\text{利用意向}}$$

- 潜在家庭累計…フルタイム、パートタイム、未就労などの就労状況別の割合
- 利用意向…各事業の利用意向率等

<推計児童数の算出方法>

令和2年から令和6年の人口をもとに、コーホート変化率法により推計を行いました。

なお、0歳児については、令和5年、6年の婦人子ども比（0歳児人口/15～49歳女性人口）の平均割合を、コーホート変化率法により算出した15～49歳女性人口推計に乗算して算出しました。

以上により算出した結果は、5頁『児童人口推計』のとおりです。

可見市は上記の標準的な算出方法により算出されたニーズ量に当該事業の利用実績等を加味し、各事業の量の見込みを算出しています。